

平成28年度

事業報告書



公益財団法人草津市コミュニティ事業団

目 次

要旨	1
I 主な公益目的事業	2
1. コミュニティ振興及びまちづくりに関する事業	2
(1) まちづくり振興	2
ア 市民公益活動団体等の交流促進	2
イ まちづくりに関する情報の収集および発信	2
ウ まちづくりに関する相談およびコンサルティング	4
エ まちづくりに関する人材育成および研修	5
オ 活動支援および資金助成	6
カ その他、各種団体との協働事業の推進	7
(2) まちづくりセンター	8
2. 高齢者福祉及び多世代交流に関する事業	9
(1) なごみの郷	9
(2) 長寿の郷ロクハ荘	10
3. 環境及び公園緑地等に関する事業	11
(1) ロクハ公園	11
(2) 児童公園等	12
4. 社会教育及び文化・スポーツに関する事業	13
(1) 草津クレアホール	13
(2) 草津アミカホール	14
(3) 文化・芸術	15
(4) スポーツ振興	16
5. その他の事業	16
(1) 事業団ファンクラブ	16
II 主な収益等事業	17
1. 公共施設管理	17
III 重要な契約に関する事項	18
1. 指定管理業務	18
2. 受託業務	18
3. 委託業務	19

要 旨

平成28年度の公益財団法人草津市コミュニティ事業団（以下、「事業団」という。）は、「ずっと住みたい草津のまち」を目指し草津市が進める「協働のまちづくり」に協力する中間支援組織として、その役割を確実に果たせるようこれまでの慣例や既成概念から脱却し、革新に挑戦する「イノベーション」を合言葉にオール事業団として仕事に取り組むことを基本方針として、様々な事業を展開しました。以下、このような基本方針に基づき事業計画に記載した下記3点の【重点事項】に沿って事業の概要を報告します。

1 協働のまちづくりの推進と中間支援組織としての機能の強化

協働のまちづくりを市と共に進める中間支援組織として、協働推進計画に基づき市民公益活動団体への中間支援はもとより、まちづくり協議会など地域の団体への中間支援にも力点をおき、まちづくりに関する相談対応や人材育成および研修を協働コーディネーターや「人と街の未来をつくるカレッジ」等を活用し積極的に進めました。活動団体の交流促進を図る「パワフル交流・市民の日」では、まちづくりへのICT活用といった新しいテーマを掲げた見本市を行い、まちづくりにおけるICTの有用性や可能性を探りました。また、活動団体の支援や協働推進の具体化のための「ひとまちキラリ助成事業」では、資金支援だけでなく提案に必要な知識取得のための学習機会を設け、提案の質の向上に努めました。更には、情報誌「コミュニティくさつ」の全戸配布を通じて、まちづくり情報の発信拡大と事業団の認知力アップを図りました。

2 政策支援型の指定管理施設としての機能の充実

指定管理施設である、まちづくりセンター、なごみの郷、長寿の郷ロクハ荘、ロクハ公園ならびに草津クレアホールおよび草津アミカホールの各施設では、単なる施設管理だけでなく、市の政策を支援する運営を行いました。たとえば、まちづくりセンターでは運営協議会事務局機能や市民公益活動の日といった各種団体の公益活動支援を行い、なごみの郷やロクハ荘では、様々な事業を通して高齢者福祉や多世代交流を進めたり、ロクハ公園では公園緑化活動や自然環境に身近にふれあえる公園として、自然や環境に関する多様な機会を提供しました。そして、クレア・アミカの両ホールでは、鑑賞型から市民参加型まで多彩なプログラムを提供すると共に、市民創作ミュージカルや学校や地域へ制作プログラムを届けるアウトリーチ事業を展開し、コミュニティの健全な発展と協働のまちづくりの実現に寄与しました。

3 組織活性化のための人材マネジメントと健全で効果的な組織運営

昨年度に引き続き、人材育成・業績評価制度といった総合的な人材マネジメントを推進し、職員力・職場力・創造力を高め、組織の活性化に努めました。また、限られた財源を有効に活用するため、歳出全般の見直しと事業の選択と集中を図り、健全で効果的な組織運営に努めました。

I 主な公益目的事業内容

1. コミュニティ振興及びまちづくりに関する事業

(1) まちづくり振興

(執行済額／予算額 11,100／12,282千円)

ア. 市民公益活動団体等の交流促進

(834 千円／1,074 千円)

① 「パワフル交流・市民の日」の実施

11月5日に、市民公益活動団体の交流イベント「パワフル交流・市民の日」を、市民活動団体や行政による参加15団体で組織する実行委員会形式で「市民ふれあい秋まつり」と冠し、市役所一帯で行いました。今回も「福祉を考える市民のつどい」（社協）との合同開催とすることで相乗効果を図り、また学生イベント「JAZZ FESTIVAL in AMICA（アマカホール主催）」とも同時に行うことで、参加団体間および来場者との交流機会と賑わいを創出しました。（来場者数約1,500人、参加団体61団体）

イ. まちづくりに関する情報の収集および発信

(4,861／4,867 千円)

① まちづくり情報誌「コミュニティくさつ」の発行

今年度、全戸配布に切り替わってから通算8回目の発行を数え、「毎回楽しみにしている」などの読者の声を多くいただいたり、地域や市民活動団体等から「取材に来て欲しい」と掲載の希望があるなど、事業団に対する市民への認知・定着度は高まっています。また、今回新たに、中間支援組織としての認知度向上を目的とした中間支援パンフレット「協働のまちづくり Back-up」を作成し、配布しました。

<発行概要（各号）>

- | | |
|------------------------------|---------------|
| ・6／15号（通算109号）「種を撒け」 | 発行部数 58,000 部 |
| ・9／15号（通算110号）「その笑顔、まちの未来」 | 発行部数 59,300 部 |
| ・11／1号（通算111号）「まちが、私を待っている。」 | 発行部数 59,400 部 |
| ・3／15号（通算112号）「ゆく川の流れは、未来へ。」 | 発行部数 59,400 部 |



② まちづくり協議会ホームページ（HP）運営サポート

地域まちづくり協議会運営の透明性・公開性の確保を図るため、希望する11学区のHPについて、入力方法の相談対応などフォローアップを行いました。また、平成29年度から指定管理者制度が導入されることを見据え、公の施設としての情報公開と利用者の利便

性の向上を目的とした地域まちづくりセンターHPの作成と保守についての制度を検討し、地域まちづくり協議会へ提案を行ったところ、6学区から希望をいただいたことから、引き続き、各まちづくり協議会の情報サポートを行う予定としています。

③ ふるさと草津年表ホームページ（HP）の充実と活用

市制60周年時に実施した写真展をもとに昨年度作成したHP「ふるさと草津60年史年表」の運営を開始しました。各地域での「まちづくり教材」としての活用を目指し、今年度はコンテンツ（写真データ）収集・充実に努めました。また、写真展での写真パネルや年表の貸出、出張写真展など、地域での活動を支援し、7月31日に大路学区で行われた「大路今昔物語お披露目会」では依頼を受け、大路に関わる新聞記事、市広報、写真の出張展示を行いました。

④ まちづくりへのICT活用調査

ICT（情報通信に関する技術）を、地域のまちづくりに活かしていくため、ICT技術の紹介や地域と大学との接点づくりに向けての活用調査を開始しました。「コミュニティくさつ」にICTコーナーを新設し紹介するとともに、「パワフル交流・市民の日」において、近隣の大学やNPOといったICT関連組織と協力し、ICT見本市を行いました。

＜参加団体＞

Code for Kusatsu	（ゴミ出しアプリ）
立命館大学理工学部笹谷研究室	（自転車マップ）
NPO 法人伊能社中	（電子地図）
湖南ネットしが	（プログラミングロボット）
FAAVO しが	（クラウドファンディング）

⑤ 生涯学習ハンドブック「誘・遊・友」

生涯学習の推進が市民の社会参加・まちづくりへの入口として捉え、市生涯学習課より受託し、市や関係機関等で実施される生涯学習機会の情報を草津市生涯学習ガイドブック「誘・遊・友」として冊子にまとめ、6月1日（更新版は10月1日）に700部発行し、その情報をHPにもアップしました。

⑥ 市民活動団体情報つながりのめ

中間支援組織の「情報の収集・発信」機能の一つとして、市内の市民公益活動団体の基礎情報を収集・発行し、市民の活動への参加や同分野・異分野のネットワーク、団体のパブリシティ活動（メディア広報）を支援しました。

＜発行概要＞

- ・発行日9月1日 掲載団体数263団体 発行部数500部



① まちづくり相談窓口・協働コーディネーターの設置

市民公益活動団体や地域まちづくり協議会など、まちづくりに関わる人や団体は事業・組織の運営や人材・資金の確保等、様々な悩みを抱えており、それらの悩みを解決し、活動のステップアップを図るため、各種まちづくり相談の対応と専門家へのコーディネートを行いました。また、高度で専門的な相談については専門性を有するNPOに委託の上、対応できる環境をつくり、「困ったら事業団」との安心感が市民等に浸透するよう努めました。なお、今年度の特徴としてはまちづくり協議会との信頼関係の構築が進んだことにより、各地域からの相談件数が増えています。

＜コーディネーター業務実績＞

- ・「地域における豊かな学びの実質化に関する調査研究」事務局業務
- ・協働提案事業報告会コーディネート
- ・まちづくり協議会向けガイド作成
- ・まちづくり計画見直しサポート（矢倉学区）
- ・まちづくり相談対応
- ・市職員向け協働研修
- ・ゆうゆうびと講師のつどいコーディネート

＜職員によるまちづくり相談対応件数＞ 177 件

◇各種調査研究 「地域における豊かな学びの実質化に関する調査研究」

昨年度行った「社会教育団体の活動場所の最適化に関する研究」で導き出された方向性を踏まえ、地域の課題やニーズに対応するための学びのプログラムや機会づくりに関する支援策、市全体の学びのしくみづくりについて、学識者や地域まちづくり実践者、行政等による研究会を立ち上げ、調査研究を行いました。なお、全5回の研究会の運営および報告書の作成については、草津市協働コーディネーターの協力をいただき、学びの体系、仕組みづくりから評価方法などについて市に提言を行いました。

・調査研究の対象

＜地域住民＞

生涯学習の理念にもとづき、地域課題や生活課題について自ら学び、将来的に地域づくりに関わってもらえるようなしくみやプログラム（市域・地域）の検討

＜社会教育関係団体、市民公益活動団体等＞

地域の課題解決に向けて、それぞれの個々の活動の目的に沿って地域まちづくりセンターと協力する体制づくりの検討

＜まちづくり協議会メンバー＞

学びの場やプログラムの提案を行い、活動のスキルアップにつながる学びとその支援のしくみの検討

① 人と街の未来をつくるカレッジ

協働のまちづくりの推進にあたり、草津市の各地域では、学区まちづくり協議会を中心としたまちづくりが展開されています。特にいくつかの地域では、まちづくり計画の更新や見直し時期にも差し掛かり、具体的な事業運営や組織運営へとシフトしています。また、平成29年度には地域の活動拠点として地域まちづくりセンターの指定管理者制度が導入されることから、これまで以上に組織運営の透明性や公益性の確保、事務力やマネジメント力の向上に関心が高まっています。事業団は中間支援組織として、地域まちづくりの運営サポートを行っていくべく「会計・税務・労務等サポート業務」の制度設計を進めるとともに、その実務に関わる研修会等の学習機会を専門家と連携しながら提供しました。併せて、すでに地域にて展開されている各種事業に対し、希望があった地域に対しては、事業団がもつノウハウやネットワーク等を活かし積極的なサポートを展開し、地域との信頼関係の構築に努めました。

◇まちづくり協議会向け

- ・税理士・社会保険労務士・事業団職員による指定管理提案相談会（2回）
参加まち協 税務6学区・労務9学区・申請書6学区
- ・税理士による年末調整相談会
12月5日（参加まち協9学区）
- ・税理士による法定調書相談会
1月18日（参加まち協5学区）
- ・社会保険労務士による まちづくり協議会労務講座
2月22日（参加まち協14学区）
- ・給与ソフト研修会
3月15日（参加まち協13学区）
- ・まちづくり協議会向け出前講座・ワークショップ等の実施
4月27日「指定管理者制度概要について」（参加まち協6学区）
5月25日「指定管理者制度申請書の記入方法について①」（参加まち協6学区）
6月8日「指定管理者制度申請書の記入方法について②」（参加まち協5学区）
- ・まちづくり協議会向けガイドブックの作成・配布

◇NPO向け

NPO向けの実務講座として、ひとまちキラリ助成採択団体や市民公益活動団体、地域まちづくり協議会、学習ボランティアに対して、広報力の向上やコミュニティビジネスなどの資金調達に関わる学習機会を提供し、事務力向上と活動の底上げに努めました。

- ・「LINE@が気になっているあなた」
7月8日（参加者22人）
- ・「会計ことはじめ～メンドー会計の“イシキを上げる、シキイを下げる”～」
8月4日（参加者20人）
- ・「思いをカタチに」
9月30日（参加者14人）
- ・コミュニティ・ビジネス講座「今はじめる、まち×しごと」
9月8日（参加者22人）
- ・ファシリテーター養成講座「会議の進め方応援講座」全4回
（参加者のべ40人）

◇出前講座

- 〈大路〉 大路今昔ものがたり写真集作成にかかるアドバイザー参加
6月に4回、7月に2回。お披露目会7月31日
- 〈常盤〉 社会保険労務士による就業規則相談
- 〈笠縫〉 笠縫・笠縫東学区合同ふるさと絵図作成委員会オブザーバー参加
7月、8月、10月に各1回ずつ
- 〈志津〉 指定管理検討委員会オブザーバー参加、7月と8月に各1回ずつ
- 〈渋川〉 渋川音楽ものがたり相談対応 *草津クリアホールとのコーディネート含む
7月と9月に各1回ずつ。社会保険労務士による就業規則の確認
- 〈矢倉〉 まちづくり計画検討委員会にてWS実施(全5回)
- 〈学区全体〉 社会保険労務士による就業規則の確認9学区、就業規則にかかる個別相談
4学区、指定管理申請にかかる個別相談5学区
- 〈大学における講義〉
 - 7月12日 立命館大学(BKC)にて講義「地域参加学習入門」約400人受講
 - 11月17日、24日 同志社大学大学院にて講義「地域再生実践論研究」
 - 12月6日 同志社大学にて講義「コミュニティ創造政策論」

オ. まちづくりに関する活動支援および資金助成

(1,433/1,603千円)

① ひとまちキラリ助成

市民公益活動団体の立ち上げ支援および連携協力や協働推進の具現化のための助成事業として、引き続き「ひとまちキラリ助成事業」を行いました。今年度は、前述のNPO向けの各種講座で助成事業の提案に必要な知識の習得や技術向上の学習機会を設け、提案の質の向上等を図りました。また、当助成の特徴である採択・不採択に関わらない丁寧なフォローアップや、資金面だけでなく団体運営や事業運営に必要な実務面のサポートも行いました。

【継続助成採択団体】

〈立ち上げ支援部門〉(2団体)

- ・「出不精の男性を引張り出そう うどん作り」 〈小野山麺くいの会〉
- ・「草津がSwingする町へ！」 〈立命館大学 JAZZ CLUB Σ Spirits Jazz Society〉

〈連携・協力部門〉(1団体)

- ・「この先もずっと未来にわたり、住みたいまちへ！」 〈志津南緑化ボランティアの会〉

【新規助成採択団体】

〈立ち上げ支援部門〉(3団体)

- ・帰省で自慢できる！ 草津のお土産を作ろう ～子育て世代が発信～
〈草津の元気と自慢土産づくり隊〉

- ・劇場を、あなたの近くの公民館へ 〈素人演芸 よもやま劇場〉

- ・つながろう★安心しよう★マンション防災 〈マンション防災委員会〉

〈連携・協力部門〉(1団体)

- ・パラスポーツ体験会 〈(特活)アイ・コラボレーション〉

② 学習ボランティア推進受託事業

「共益は公益の入口」として位置づけ、生涯学習ハンドブック「誘・遊・友」とともに市生涯学習課より受託し、市内の学習ボランティア情報を「草津市ゆうゆうびとバンク」として冊子にまとめ発行しました。また、ゆうゆうびとバンク登録者と施設担当者が学習

ボランティアや講座に関する課題を共有する懇談の場として開催された「ゆうゆうびと講師のつどい」の当日進行等のサポートを行いました。

＜発行概要＞

- ・発行日6月1日 掲載団体・個人数のべ114件、発行部数150部
- ・2月22日 ゆうゆうびと講師のつどい（参加者15人）

カ. その他、各種団体との協働事業の推進

【各種団体との協働事業および各種研究会等への委員派遣等の実績】

- ・草津市大学地域連携強化プラン懇話会委員（市草津未来研究所）
- ・草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会（市まちづくり協働課）への参加
- ・災害支援市民ネットワークしが研究会
- ・淡海ネットワークセンター情報誌「おうみネット」への寄稿
- ・草津市まちづくり協議会事務局長連絡会議（市まちづくり協働課）へオブザーバー参加
- ・市民活動センター意見交換会（県内中間支援センター）への参加
- ・草津市災害ボランティアセンター運営訓練検討委員会委員（市社会福祉協議会）
- ・「生き生きシニア活動顕彰」助成（ニッセイ財団）に「ふるさと『矢倉』風景の記憶絵プロジェクト」を推薦し採択
- ・新入学児童記念撮影事業（草津青年会議所）への職員を派遣
- ・草津納涼まつり実行委員会委員および「つくりものコンクール」審査員派遣（草津商工会議所）



多くの市民が利用する中間支援センターとして「登録団体とともに創る草津のまち～市民公益活動の活性化を目指して～」の運営理念のもと、適正な管理運営を行いました。

- ① センター全体の利用状況は今期、利用件数 8,402 件、利用者数 150,032 人で利用料金は 18,887 千円となり、前期と比べ利用件数 7%、利用者数 9%、利用料金約 6%とそれぞれ増えました。
- ② センターの休館日に、公益性を高めようとする市民団体に対し施設の一部を貸し出す「市民公益活動の日」を 9 日間開館し、10 団体の利用で、約 90 人の方々に利用いただきました。また、ふらっとサロンの利用は計 35 件あり、約 1,000 人の方々に利用いただきました。このうち「子育て支援ママ・コミュニティ」の実施状況は、計 7 回の事業に対し約 500 人の参加となりました。
- ③ 市民公益活動の裾野を広げる目的で、登録団体が病院など他施設に出向いて活動を紹介する「アウトリーチ事業」は、18 団体に施設を紹介し、11 か所で行われました。また、草津市の動きや各分野で活躍する市民を紹介する「ガンバトル草津市民」は、情報の発信機能を高めるため、購読新聞を 5 紙にし、タイムリーなまちの情報を提供しました。
- ④ 草津市民と市、事業団の三者で構成する「まちづくりセンター運営協議会」には 56 団体が参加し、中間支援組織としての機能を高めています。また、公設市民営として自主運営されている「草津コミュニティ支援センター」についても安全管理を徹底し、各種サポートを行いました。
- ⑤ 基礎的コミュニティへの支援として行っているまちづくり機器（30 種類）の貸し出しについては、件数は 218 件で前期に比べ 9 件減りました。また、貸し出し台数は 602 台で、前期に比べ 5%減りました。



2. 高齢者福祉及び多世代交流に関する事業

(1) なごみの郷

(執行済額／予算額 57,614／62,332千円)

仲間どうしの交流や好奇心を満たす学びなどを通して、様々な出会いとふれあい、いきがいを感じて過ごしていただける「くさつ多世代幸齢者ステーション」として、適正な管理運営を行いました。

① 施設全体の利用者数は、今期 89,371 人となり、前期とほぼ同じでした。また、温浴施設の利用者数は、51,840 人で、前期と比べ約 8%減りました。このことから、利用料金については 6,593 千円となり、前期と比べて 582 千円の減収となりました。キッズルームを中心とした新たな客層による入館者や多世代交流のイベントを 2 回行ったことにより、施設の利用者は前年とほぼ同じ水準を維持しましたが、温浴施設の利用者増へはつながりませんでした。なお、温浴施設の利用者減の主な要因は、市内 60 歳以上の利用が減ったことによると考えます。

② 今年度は、多世代が楽しく集いふれあう空間の提供、学びで育む知縁コミュニティの創出、いきがいのある豊かな生活の支援をテーマに、地域や団体と連携して各種事業を行いました。

- ・親子の日（地元の農家、湖南農業、びわこてらこや、道の駅草津、草津総合病院等）
- ・夏まつり（常盤やすらぎ学級江州音頭クラブ、山田漁業協同組合、草津ケアセンター、常盤幼稚園、家庭的保育にっこり等）
- ・ハッピーハロウィン（JA、草津総合病院等）
- ・クリスマス会（湖南広域消防局、郵便局、けん玉協会滋賀支部等）
- ・ひな祭りフェスタ（草津栗東交通安全協会、こなんSSN等）

また、今回はじめての試みとして、笠縫東学区「ハンター東っ子」の夏の宿泊体験の受け入れを行い、近隣の幼稚園・保育園との連携事業として、園児の描いた絵をロビーに、その後巡回バスの車内ギャラリーとして展示を行いました。その他、企業連携として森永乳業の料理・栄養講座を 2 回行いました。



③ 昨年度に引き続き、介護予防・日常生活支援総合事業を支援を目的として、同じ中間支援組織である社会福祉協議会と共催で同協議会の地域サロンと連携した「とく・得くバスツアー」を 3 回行い、約 120 名の方々に参加いただきました。また、今年度は脳トレ講座を 5 月から 10 月までの半年間行いました。その他新規事業として、カラオケ機器を使い体を動かす「歌と音楽でワクワトレーニング」、シニア向け「初心者のスマートホン教室」、草津総合病院との連携で「血流・血管年齢・骨密度測定会」などを行いました。

高齢者が心身ともに健康で長生きしていただけるよう、また様々な出会いとふれあい、安らぎを感じて過ごしていただける「健康長寿くさつを目指す幸齢者ステーション」として、適正な管理運営を行いました。

- ① 施設全体の利用者数は、今期 57,371 人となり、前期と比べて約 8%減りました。また、温浴施設の利用者数は、34,051 人で、前期と比べて約 11%減りました。このことから、利用料金については 4,605 千円となり、前期と比べて 643 千円の減収となりました。利用者等の減少の理由としては、今夏(特に 7・8月)は猛暑の影響で入館者が減ったこと、また 10 月 3 日から 24 日までの間、温浴施設のボイラーの改修工事で温浴施設を休止したことにより、温浴施設利用者も合わせて減ったものと考えます。
- ② 今年度は、健康で長生きすることを目指した事業の展開、いきがいのある豊かな生活の支援、三世代が楽しく集いふれあう空間の提供、そして学びで育む知縁コミュニティの創出をテーマに、地元町内会（上尾町内会）や地域の高校（玉川高校）と連携・協働で企画や運営を行いました。また、ロクハ荘の施設利用方法を見直し、娛樂室に簡単なフィットネス器具などを揃え、利用者の健康増進に役立つよう改善し、小さい親子連れから高齢者の方に利用率が増加しています。
- ③ 昨年度に引き続き、介護予防・日常生活支援総合事業を支援を目的として、同じ中間支援組織である社会福祉協議会と共催で、同協議会の地域サロンと連携した「とく・得くバスツアー」を 3 回行ったところ、約 130 人の方々に参加いただきました。また、今年度は脳トレ講座を 5 月から 10 月までの半年間行い、約 260 人の方々に参加いただきました。その他新規事業として、立命館大学との連携し 10 月から 11 月にかけて健康バンド講座を行い、約 50 人の方々に参加いただきました。
- ④ 今年度は、同好会による自主活動のほか、カラオケ大会・百歳体操等をボランティアによる自主活動として企画・運営するお手伝いを積極的に進めました。
- ⑤ 草津発のオリジナルプログラムとして、これから街の担い手となる団塊の世代の人たちが、「街の中で 老いを楽しみながら、介護予防や健康維持、生きがいづくりのヒント」を見つけてもらう場を設けるために「びわ湖くさはつはつらつ CLUB in ロクハ荘」を今年度から始めました。次年度は、このプログラムをなごみの郷との共同事業として、一体運営することにより市民の方々に健康づくりといきがいの創出につなげていきます。



3. 環境及び公園緑地等に関する事業

(1) ロクハ公園

(執行済額/予算額 43,515/45,086千円)

「人と街と未来にコミュニケーションする緑住文化都市～ガーデンシティ草津への挑戦～」を目指し、身近に公園緑化活動や自然環境に触れることができる公園として、適正な管理を行いました。

- ① 今期6月28日から7月8日までの11日間、可動式上屋の修繕のためプールを臨時に閉鎖しましたが、プールの利用者数は、74,282人となり、前期と比べて約900人増えました。しかし、プールと駐車場の利用料金収入は34,774千円となり、利用料金の収入見込に対し約536千円の減収となりました。この要因は、客単価の減少や閉鎖期間における収入減が主たる原因だと考えます。
- ② ボランティア団体や公園サポーターの積極的な協力を有効に活用し、公園緑化活動を身近に感じ取ってもらい、ロクハ公園に親しみを持ってもらうとともに、地域に緑化活動を広げてもらえるような体制づくりに取り組みました。
- ③ 夏期に運営した「カブトムシの家」の入場者数は、今期3,862人となり、前期と比べて約27%増えました。また、カブトムシを幼虫から育てる体験ができる、「カブトムシの里親となって家庭で育てていただくカブトムシ里親事業」を行いました。
- ④ 「緑化フェア・ロクハ感謝祭」を10月22日(土)に開催し、約3,000人の方にご来場いただきました。また、イベントの情報をホームページやフェイスブックなどのツールを活用し発信しました。あわせて「公園へのいざない(全8編)」を新規にアップし、公園の隠れた魅力を掲載しました。
- ⑤ プール閉鎖期間の12月10日から27日までの15日間、「落ち葉プール」を開催したところ1,185人(74.1人/日)の入場がありました。また、「冬の屋外で、遊び方を考えて楽もう」をテーマに「はらっぱ活動」を試験的に行いました。
- ⑥ ロクハ公園の恵まれた自然環境を活かして、身近な動植物の生態観測としての樹木草花ウォッチングや野鳥ウォッチング等を行いました。また、自然素材を使ったクラフト体験としてカーネーションでプードルづくりや自然の中で自由な発想で遊ぶはらっぱ活動を行い、自然や環境に関連する出会い・発見・学びの機会を提供しました。



市内約 310 か所の児童公園の維持管理については、「安心して安全に遊ぶ・集える公園」を目指して、不良箇所や危険箇所の早期発見に努めるとともに、各公園の遊具および外構保守点検を専門業者に委託し、その点検結果による修繕業務を行いました。また、地域の方の公園管理の支援のために草刈り機等の環境緑化機器の無料貸出や使用者講習会を行いました。

平成 26 年度から引き続き草津市ごみ減量推進課から委託を受け、市民向けに「家庭用粉碎機の無料貸出事業」を行いました。これは、家庭での庭木の剪定で発生した枝や葉をごみとして処分せず、粉碎・チップ化して堆肥などとして再利用し、資源の有効活用を推進するとともにごみの減量化も目的とするものです。なお、今期の貸出件数は 177 件（前期 147 件）でした。



4. 社会教育及び文化・スポーツに関する事業

(1) 草津クリアホール

(執行済額/予算額 56,068/62,776千円)

「人と街と未来にコミュニケーションする文化創造ホール」の運営理念のもと、市民文化の創造と普及・振興のため、子どもから大人まで多くの市民に喜んでいただける交流施設として、適正な管理を行いました。

施設全体の利用状況は、今期、利用件数 1,577 件、利用者数 108,130 人となり、前期に比べ、利用件数で約 22%、利用者数で約 20%減りました。この理由としては、昨年度はオープニングイヤーとして県主催事業等の特需があった反動だと考えます。なお、ホールの利用状況は、開館日数 289 日に対して利用日数は 137 日、利用率は 47.4%となりました。

ア. 鑑賞型事業

- ① ウィークエンドロビーコンサートとして、公演のPRやアミカホール事業と連携したロビーコンサートを行いました。これは単に人気生番組の放送ではなく、赤ちゃんと一緒に楽しめるコンサート『マッチといっしょに あ・そ・ぼ!』まち活マッチショーを自主制作し、四季折々のプログラムとリクエスト曲、クリア・アミカ事業案内を盛り込んだ内容で、子育て世代が気楽に参加できるコンサートとして親しまれ、会場に訪れる親子、家族だけでなく、えふえむ草津と連携し開設したクリアサテライトスタジオと併せて、FMリスナーファンも増えています。また、夏にはロクハ公園プールのプールサイドでの放送も試み、ファン層拡大に努めました。



- ② 夏休みこどもフェスティバル事業として、クリア舞台芸術学校シリーズクリア舞台芸術学校体験プログラムを、大阪音楽大学ミュージカル課と連携し、大音ミュージカル研究会によるワークショップを行いました。

- ③ クリア劇場プロ公演（共催事業）として、「松竹新喜劇」『NHK おとうさんといっしょ』公演を行いました。また、劇団四季『エルコスの祈り』、劇団四季『こころの劇場』ならびにNHK『全国学校音楽コンクール』、NHK『ママンざい』収録を共催事業として行いました。



- ④ 市民企画提案事業 市内の中・高・大学と一般のブラスバンドやビッグバンドが一堂に会する「クリアプラスフェスティバル」を今年度初めて行いました。



イ. 市民参加型事業

- ① 市指定事業『市民文化祭』『市民音楽祭』
を実行委員会形式で行いました。



ウ. 創造事業

- ① クレア舞台芸術学校として、小学生から中学生まで約80人の子ども達が参加し歌・ダンス・芝居の基礎を学ぶ、アート体験学校を開校しました。その最終日には、プロと共演する「ホップ・ステップ・ミュージカル」ショーの公演を行い、好評を得ました。また、草津歌劇団2期生として、オーディションで選ばれた小学生から高校生までの子どもたち82名が、草津の歴史や名所を紹介したオリジナルミュージカルショー「KUSATSU グランドパレード」の公演を行いました。今年度は草津川跡地公園のオープニングを記念した曲「草津川跡地公園に出かけよう」などを披露しました。



- ② 『みんなの音楽会』オーケストラと歌うクリスマスコンサートを行いました。今回は、草津チェンバーオーケストラを主に市民公募によるスペシャル合唱団を結成し、オリジナル編曲『きよしこの夜』を会場のみなさんで大合唱し好評を博しました。
- ③ クレア交流館事業として、企画展示を草津市在住のデジタルアート作家タナベサオリ氏による「フィルム絵本展」を行いました。



(2) 草津アミカホール

(執行済額/予算額 23,072/26,570 千円)

「草津をまるごと劇場に！アウトリーチする文化ホール『made in くさつ』の文化に挑戦」をテーマに、市民参加、市民企画を主に幅広い世代のニーズに応え、未来を担う子どもたちの芸術創造の場として、適正な管理を行いました。

施設の利用状況は、今期、利用件数 1,632 件、利用者数 57,571 人となり、前期に比べ、利用件数で約 15%、利用者数で約 19%増えました。このことから、利用料金については 10,411 千円となり、前期と比べて 1,819 千円の増収となりました。なお、ホールの利用状況は、開館日数 306 日に対して利用日数 198 日で、利用率は 64.7%となりました。

ア. 鑑賞型事業

- ① アミカウィークエンドコンサートとして、地元企業協賛推薦の世界で活躍するギター＆尺八奏者のコンサートを行いました。また、スペシャル事業として、毎年恒例となった立命館ジャズクラブとの共催で草津ジャズフェスティバルを「市民ふれあい秋祭り」と同時に開催しました。ホール内だけでなく、アクアプラザを利用したウェルカムコンサートは多くの観客で賑わいました。
- ② こども輝くブックトークコンサートとして、アミカホールプロデュース 草津民話オペラ『青花紙のうた』の公演を行いました。草津にまつわる民話を、小さなオペラ（オペレッタ）として書き下ろし、地元声楽家などアーティストの協力により、生演奏のオペラは草津のこどもたちの学校鑑賞プログラムとして完成させました。また 11 月には、草津小学校の全校生を対象に再演しました。このミニコンサートと合わせた音楽鑑賞会プログラムは大変好評で、事前にアウトリーチをした新曲『こころの青花』をコンサートの最後に全員合唱し、子どもたちの心に残る公演となりました。なお、高学年には終演後行った避難訓練に参加・協力いただきました。



イ. 市民参加創造事業

- ① 草津市合唱祭および草津市青少年アンサンブルコンサート共に、一般公募団体を含む実行委員会制で行いました。今回は、事前ワークショップやゲスト指揮者による合同演奏も魅力の一つとなりました。
- ② アミカ講座として、「デッサン教室」、「ピアノと一緒に歌う会（アミカ会場、クレア会場）」、大津絵など、市民が気楽に参加できる芸術講座の開校したところ、すべての講座が人気を博しました。特に「ピアノと一緒に歌う会」「デッサン教室」については、終了後も市民の自主教室として継続され、アミカホールの文化教室やクレアホールのリハーサル室の利用促進につながっています。

（３）文化・芸術

草津市の文化芸術に関する情報提供と交流の場を目的とするアートセンターをクレアホールに開設し、市民のみなさんが気楽に相談できる窓口として地域、学校、利用者からの各種相談に応じました。また、小学校音楽鑑賞会や子育て支援センターサマーコンサートの制作など、市民とアーティストをつなぐお手伝いやアートを通じたまちづくり活動を支援しました。

(4) スポーツ振興

事業団が出資する合同会社草津市スポーツ振興事業体の業務執行社員の一員として、スポーツ施設の運営管理や各種スポーツ事業を行うとともに、（公社）草津市体育協会、各種スポーツ協会等と連携を図りながら、スポーツ振興をはじめ市民相互のふれあいや地域連携意識の高揚を図り、協働のまちづくり活動に寄与しました。今年度は従来から行っている事業に加え、利用者の利便性の向上を図るため、刷新したHP「草津市スポーツ情報」から施設の予約状況がリアルタイムで確認できるようにすると共に、総合体育館の窓口にタッチパネル式のパソコンを設置しました。また、総合体育館のトレーニング室の利用者向けに「トレーニングサポートデイ」を設け、スポーツトレーナーによるトレーニングの指導を行ったり、ロビーに握力や背筋力等を測定する器具を設置して現在の体力を測定することで、今後の健康・体力づくりや生活習慣を見直すきっかけづくりとしました。このことは、ひいては介護予防に役立つものと考えます。

5. その他

(1) 事業団ファンクラブ

(執行済額／予算額 452／550千円)

設立 30 周年を機に創設した事業団ファンクラブ「まち活マッチの会」は3年目を迎え、事業団各施設や地域開催でのイベントにおいて、さらなる事業団の周知と事業団が取り組む様々な活動に協力・支援していただくファンクラブの会員勧誘活動を積極的行いました。

また今年度から、事業団のLINE アカウント「まち活マッチの会」を取得し、友だち登録の勧誘により、新たな事業団の情報発信を行いました。

さらに、「まち活マッチ」のノベルティグッズやLINE スタンプの販売を行うことで、事業団の周知に繋がりました。

(今期会員数 160 人／前年度会員数 182 人)



Ⅱ 主な収益等事業

(1) 公共施設管理

公共サービスの充実や公益目的事業に付随する事業を行うことにより、住みよいまちづくりに寄与することを目的として、公共施設の適正な管理等を行いました。

① 道の駅草津駐車場

「道の駅草津」駐車場の管理運営を受託し、ドライバーの安全で快適な運転に要する休憩の場を提供しながら、草津の文化、歴史、名所などの紹介や地元産物の販売など、県内外から車で訪れる利用者にとって草津の玄関口となる多機能型の施設として、まちづくり振興の一助としました。また、近年利用が増えているサイクリストのためのサイクルスタンドや年々普及が進んでいる電気自動車用の充電スタンド、スマートフォン等の普及に対応する無料公衆無線 LAN の設置など、さらなる利便性の向上と魅力の創出に努めました。

② まちづくりセンター貸館

市民活動の推進に寄与するために運営している市立まちづくりセンターの一般貸館を行いました。一般貸館は市民活動団体の利用の妨げにならないようにセンター3階部分のみとするとともに、利用者の利便性向上のため、新たにカラーコピー機やスマートフォン等の普及に対応する無料公衆無線 LAN を設置しました。

③ ロクハ公園（プール事業）

ロクハ公園プールの管理運営を行いました。また、管理運営については安全確保に万全を期すため専門業者へ委託する方式としました。また、5月15日から9月30日の間、プールを活用した事業として、全13の各種水泳教室を委託で行いました。

④ 児童公園等維持管理

市内児童公園等の遊具補修や高木の剪定業務など、地元住民による自主管理では対応が困難な業務を専門業者に委託して行いました。

⑤ なごみの郷、ロクハ荘、クレアホール、アミカホール、各施設の維持管理

なごみの郷とロクハ荘に設置されている温浴施設をはじめ、クレアホールやアミカホールの修繕や維持管理を、より一層の経費節減に努めながら適正に行いました。

Ⅲ 主な委託契約

1. 指定管理業務

施設名	契約名	相手方	契約金額（円）
まちづくりセンター	草津市立まちづくりセンターの管理に関する協定	草津市	25,537,000
なごみの郷	草津市立なごみの郷の管理に関する協定	草津市	72,487,000
長寿の郷ロクハ荘	草津市立長寿の郷ロクハ荘の管理に関する協定	草津市	61,815,000
草津市公園事務所	草津市都市公園（ロクハ公園）の管理に関する協定	草津市	23,952,000
草津アミカホール	草津市立草津アミカホールの管理に関する協定	草津市	32,321,000
草津クレアホール	草津市立草津クレアホールの管理に関する協定	草津市	96,199,000

2. 受託業務

施設名	契約名	相手方	契約金額（円）
道の駅草津	道の駅草津駐車場等管理運営業務	草津市	15,665,000
草津市公園事務所	児童公園等維持管理業務	草津市	64,213,000

3. 委託業務

施設名	業務名	入札・随契	契約業者名	契約額	摘要・随契理由
まちづくり振興課	情報誌「コミュニティくさつ」印刷・配送業務	随契	スマイ印刷	3,462,264	
	協働のまちづくり推進のためのサポート業務	随契	認定特定非営利活動法人しがNPOセンター	2,000,000	
まちづくりセンター	日常及び特別清掃業務	随契	㈱テクノス 総合メンテナンスサービス	2,450,088	
なごみの郷	巡回バス運行业務	随契	滋賀観光バス(株)草津営業所	8,856,000	
	環境衛生管理業務	随契	(株)光ビルサービス	1,436,400	
	温浴設備等保守点検業務	随契	(株)光ビルサービス	2,221,560	
	温浴施設管理業務及び清掃業務	随契	(株)サンアメニティ	8,961,840	
ロクハ荘	総合メンテナンス業務	随契	ビル管財(株)	1,550,880	
	巡回バス運行业務	入札	(有)レークリバティ	4,069,440	
	温浴施設等管理業務および清掃業務	随契	(株)サンアメニティ滋賀支社	8,694,524	
クレアホール	日常清掃・定期清掃業務	随契	㈱テクノス総合メンテナンスサービス	2,001,024	事業団請負等の契約手続き等に関する要綱第3条4
	舞台照明設備保守点検業務	随契	パナソニックESエンジニアリング(株)	1,393,200	事業団経理規程21条1(1)設置メーカーであり、設置状況等に精通しているため
クレアホール アマカホール	舞台管理業務	随契	(有)アートファクトリー	22,234,920	事業団経理規程21条1(1)舞台を管理・監督する専門性と十分な経験が必要とするため
アマカホール	舞台機構保守点検業務	随契	三精テクノロジー(株)	1,069,200	事業団経理規程21条1(1)設置メーカーであり、設置状況等に精通しているため
草津市公園事務所	プール等管理運営業務	随契	(株)サンアメニティ滋賀支社	17,131,224	
	ロクハ公園駐車場管理・路上警備業務	入札	東和警備保障(株)	3,348,068	単価契約(別途単価表)
	ロクハ公園プール水泳教室管理運営業務	随契	(株)サンアメニティ滋賀支社	1,209,330	
	芝生維持管理業務	随契	㈱緑化計画	1,372,896	
	多目的広場排水構造物設置・芝生張替	入札	竹村造園	2,615,760	
	草津市内児童公園等植栽維持管理業務	随契	草津造園協同組合	8,752,754	単価契約(別途単価表)
	草津市内児童公園等便所清掃業務	随契	社会福祉法人にぎやか会	2,298,780	
	草津市内児童公園等刈草等収集運搬業務	随契	㈱三峰環境サービス	2,391,120	単価契約9,720円/1公園
	草津市内児童公園等遊具等保守点検業務	入札	株式会社トーテック	2,008,692	
	込田公園清掃業務	随契	特定非営利活動法人すまいる	1,843,452	
道の駅草津	簡易パーキング内トイレ清掃業務	随契	(有)からすま農産	1,810,620	受託者が館内で販売業務を行っており、緊急時・安全確保等、道の駅と一体的に管理する必要がある為
	道の駅草津駐車場・ふれあい広場維持管理業務	随契	(有)からすま農産	3,182,662	受託者が館内で販売業務を行っており、雑草の繁茂や芝生の状況等の確認が迅速にできる為
	道の駅草津植物管理業務	入札	(有)玉川造園	3,024,000	

※契約金額が100万円を超える業務のみ記載